

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03171

研究課題名(和文)ドイツ中世後期における多元的コミュニケーションと政治秩序

研究課題名(英文)Multiple communication and political order in Late Medieval Germany

研究代表者

服部 良久(Hattori, Yoshihisa)

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：80122365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：集権的国民国家モデルを参照軸として中世後期のドイツを領邦分立、没落・衰退の時代と捉える国制史観を克服するため、広範な政治主体(選定侯、諸侯、貴族、都市民、知識人など)の間の多様なコミュニケーションの展開に着目した。一方で王の、法制度・組織化ではなく多様な可視的メディアを用いた臣民に対する権威の表象、演出、他方で君主から自律的に展開する諸侯、貴族、都市民相互の同盟、連合のネットワーク形成による地域の平和秩序形成が中世後期には活発化し、それら多様な主体による多元的な政治的コミュニケーションが君主の権威との相互関係により、ポリセントリックな王国の緩やかな政治的統合が維持されたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

21世紀の歴史学方法論として現れた政治文化、言語・象徴儀礼を媒体とするコミュニケーション論の方法により、中世後期ドイツ史を没落の過程というイメージから解放し、制度国家、法治国家とは異なる固有の政治秩序による緩やかな政治的共同体として捉えなおした。すなわち王と諸侯のみならずより広範な政治主体によるコミュニケーションの拡大と稠密化が、地域、広域的な政治的ネットワークを形成し、また言語コミュニケーション空間を一種の公論として出現させた。君主の権威と統治はこのようなコミュニケーション空間との相互関係により成り立っていたことを明らかにした。この視点は国家を相対化する現代世界のあり方の考察にも貢献する。

研究成果の概要(英文)：This research aims at re-interpretation of Late Medieval Germany often regarded as a Kingdom in the downfall. The focal points: 1. The representation of monarchical authority of the Kings by ritual performance and various visible mediums. 2. the emergence of wide-spreading public debate and public opinions in the periods of disputes between Emperor and Pope and during the Council of Constance in the 15th century. 3. The alliances and leagues of the towns, princes, and nobles. From the late fourteenth century on, the political elites and towns tried to settle the conflict between them and keep peace and order by alliances, which were widened in almost all the western parts of Germany in the 15th century. Emperor had to appreciate and rely on the influence of their autonomous cooperation. In this sense, we should consider the associative political culture as the important factor of the political integration of Late Medieval Germany as a loose polycentric community.

研究分野：西洋中世史

キーワード：ドイツ 中世後期 コミュニケーション 政治秩序 儀礼 同盟 ネットワーク 公論

1. 研究開始当初の背景

英仏型の国民国家形成との対照により、ドイツ中近世は長らく君主（王・皇帝）統治の法・制度的基盤の弱さと領邦分裂により、衰退と没落の時期と見なされてきた。このような伝統的見解は20世紀末より、国民国家の相対化、EUを念頭に置いたボーダーレスな視点、複合国家論などにより、見直しが行われてきた。ドイツではとくにP・モーラフが15世紀後半の帝国改革等による帝国国制の凝集（制度化）を強調したが、その後の中世後期ドイツの研究の大半は、帝国議会成立過程や王権とシュテンデの二元構造など、なお国制史の枠を出ていない。他方でミュンスター大学のG・アルトホフを中心とする「シンボリックなコミュニケーション」プロジェクトは政治、社会、文化に及ぶ21世紀の前近代ヨーロッパ史研究のための新しいアプローチを拓いた。こうした欧米の研究動向をふまえ、中世後期ドイツの政治秩序を、多面的コミュニケーションのプロセスとして再解釈することを、研究課題として設定した。

2. 研究の目的

中世後期のドイツ（神聖ローマ帝国）の政治構造・秩序を、「領邦国家体制」という従来の国制史の枠組みを超えて展開する、多様なコミュニケーションのプロセスとして捉えようとする。中世後期には中世盛期までの宮廷に集う政治エリート（君主、選挙侯、側近的聖俗諸侯）に加え、様々な政治的、社会的危機に対応してより広範囲な人々（中下級貴族、帝国都市と市民、聖職者、知識人・学識者）が一定の目的、利害、理念を共有しつつ行う、地域、広域、帝国レベルの多面的、重層的なコミュニケーションが王（皇帝）の政治と帝国の平和、秩序に大きな影響を与えた。このような広範で密度の濃い政治的コミュニケーションが現れるのは、13世紀の皇帝フリードリヒ2世及び14世紀前半の王ルートヴィヒ・デア・バイエルと教皇との争い、14世紀後半のルクセンブルク朝のカール4世の儀礼、シンボル（聖遺物、聖人、紋章）を多用した「ヴィジュアル・ポリシ」、王ヴェンツェル時代の都市同盟、諸侯同盟の戦い、ジギスムントのイニシアティブによるコンスタンツ公会議時代の教会統一、改革をめぐる論争と多様なメディアによる公論の形成、そして13世紀半ばから15世紀を貫いて繰り返し現れる都市、諸侯、貴族の地域、広域の治安、平和のための連携と相互援助の同盟ネットワークングにおいてである。このような帝国政治における直接・間接の政治主体の拡大と彼等のコミュニケーションの展開過程から政治秩序の構造と動態を明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

皇帝・教皇の争い、公会議期のシスマ解消をめぐる論争、教会改革などをめぐって展開される、公論とも呼べる密度の濃い言語コミュニケーションについて、聖俗政治的エリートの文書（証書）、書簡等を用いて考察する。また都市と諸侯の紛争（フェーデ）における仲介・仲裁、或いはフェーデ遂行のための同盟、そして和解が成立した後の、地域の平和・治安のためのラント平和の誓約と平和団体（同盟）の形成、すなわち都市と諸侯の繰り返されるネットワークングを、同盟文書、規約、通信文書などを用いて明らかにする。こうした折々の問題、状況に対応した幅広く層の厚い政治主体の同盟、党派形成、意思表示などの共同行動が、領邦の枠に縛られない地域の政治秩序、そしてポリセントリックな帝国の緩やかな統合に与えた影響を、国王自身のアクション、リアクションをも含めて考察する。同時に、そうした共同行為のプロセスに現れる言説、すなわち根拠と正当性を弁証する価値、理念、規範意識を読み取ることにより、政治主体の共有するアイデンティティのあり方をも明らかにする。

4. 研究成果

2017年度は13世紀後半～14世紀半ばの、ドイツ北西部から中部、ライン、フランケン地方の政治秩序を、地域の政治的アクターである聖俗諸侯、有力貴族、都市のコミュニケーション・プロセス、具体的には紛争と紛争解決、仲介、仲裁、和解、友好同盟といった、当事者や第三者、地域のアクターが広く関わる政治的インタラクションの繰り返しと、そこから浮かび上がる流動的、可変的なネットワークを明らかにした。こうした地域の政治的コミュニケーションのプロセスには、ルドルフ・フォン・ハプスブルク以後の王権は無関係ではなく、地域のラント平和を、こうしたネットワークに依存しつつ実現しようとしたが、その効果、王自身の影響力は地域の権力関係に応じて様々であり、このことも中世後期ドイツ（帝国）の、多面的コミュニケーション

と政治秩序の関係の特色をなすものとして確認できた。

2018 年度には皇帝カール 4 世と同時代のハプスブルク家のオーストリア大公ルードルフ 4 世の様々なシンボルを用いた可視的、儀礼的、宗教的な権威表象（ヴィジュアル・ポリシ）の特質を比較考察し、他方で国王ヴェンツェル統治が帝国西部の都市（同盟）と諸侯間の紛争収拾と利害調整を行い得ない状況下で、都市、諸侯、貴族の自律的なコミュニケーションがあらたな平和秩序を模索しつつ展開する過程を明らかにした。ベルリン大学およびミュンスター大学で、L・スケイルズ教授、L・ヴォルフインガー研究員と研究課題について意見交換した。

2019 年度にはドイツ中世後期の「アソシエイティブな政治文化」という解釈モデルにより 14-15 世紀ドイツの政治秩序を再解釈することを試みた。具体的には 14 世紀の帝国政治の中核地域における大小の都市同盟、貴族・諸侯の同盟、それらの相互の連合とネットワーク化、広域的なアソシエイションとしてのシュヴァーベン同盟（15 世紀）の展開について考察し、研究成果全体の総括となる次の点を明らかにした。すなわち都市民、貴族、諸侯は地域、広域の平和と秩序、公共の福利（善）の回復、維持という利害・関心の共有により、身分を超えたコミュニケーションと協働が可能になったこと、同盟関係は度々「君主不在」の時期や地域で自律的に展開したこと、こうしたアソシエイティブな政治文化と行動が、君主権力から自律的に領邦の枠を越えて拡がり、政治社会の稠密化が促された。その結果、中世後期のドイツは、領邦分裂、集権国家形成の何れでもなく、広範な政治エリートの多元的、重層的なコミュニケーション・ネットワークに支えられた、緩やかでポリセントリックなポリティとしての構造化が進んだとの暫定的な認識を得た。2019 年 12 月ダラム大学の L・スケイルズ、ゲッチングゲン大学の L・ヴォルフインガーをゲストとする京都の研究集会を計画した。急な事情で両氏の来日は中止されたが、12 月に京都大学において田口正樹、横川大輔両氏を招聘して中世後期の君主統治を政治文化とコミュニケーションから再解釈するための研究集会を開き、成果報告書を作成した。繰り越しによる 2020 年度の研究では、中世後期の幾つかの大きな政治問題に直面した社会において現れる広範囲で密度の濃い言語コミュニケーションを、公論、公共性、公共圏という概念を用いて解釈することを試み、次の研究課題への展望を得た。

以上の研究により、ドイツ中世後期の政治秩序は、(1) 君主の儀礼的、演出的なパフォーマンスや、様々な可視的メディアによる権威の象徴物、宗教的シンボル等による、おおよけ（臣民）に対する自己表象と臣民によるその受容、(2) 政治的危機状況において現れる濃密な言語コミュニケーション空間（議論、プロパガンダ、うわさ、公論）と君主の相互交渉、(3) 政治エリートの同盟、連合、協働の可変的ネットワークの平和維持機能、の視点から多元的コミュニケーションの展開過程として理解することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 服部良久	4. 巻 1
2. 論文標題 中世後期ドイツにおけるコミュニケーションの諸相と政治秩序	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 服部良久編著『中世後期ドイツにおける多元的コミュニケーションと政治秩序』科研報告書	6. 最初と最後の頁 5-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部良久	4. 巻 265
2. 論文標題 書評 Masaki Taguchi, Koenigliche Gerichtsbarkeit und regionale Konfliktbeilegung im deutschen Spaetmittelalter: Die Regierungszeit Ludwigs des Bayern (1314-1347), Duncker & Humblot, Berlin 2017	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 69-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部良久	4. 巻 661
2. 論文標題 「最愛の妻」にして「王国の共治者」 - 中世ドイツの国王夫妻 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 54-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 服部良久	4. 巻 -
2. 論文標題 12世紀ドイツの移動国王宮廷と政治的コミュニケーション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国境を超える歴史学（愛知大学人文社会学研究所 研究報告論文集）	6. 最初と最後の頁 22-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部良久	4. 巻 32
2. 論文標題 12世紀ヨーロッパの政治秩序に関する一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本歴史学協会年報	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihisa Hattori	4. 巻 22
2. 論文標題 Gemeine Ressourcen, Arbeit und Kommunikation im Oberinntal in Spaetmittelalter und Frueher Neuzeit	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Histoire de Alpes - Storia delle Alpi - Geschichte der Alpen	6. 最初と最後の頁 253-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 服部良久
2. 発表標題 バルバロッサとベアトリクス 12世紀の皇帝夫婦
3. 学会等名 日本西洋史学会第69回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 服部良久
2. 発表標題 西欧中世における「公共性」論の射程
3. 学会等名 鷹陵史学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 服部 良久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版	5. 総ページ数 482
3. 書名 中世のコミュニケーションと秩序 紛争・平和・儀礼	

1. 著者名 服部良久（朝治啓三、渡辺節夫、加藤玄他と共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 350
3. 書名 <帝国>で読み解く中世ヨーロッパ 英独仏関係史から考える	

1. 著者名 Yoshihisa Hattori (ed.by Leggero,R., 共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Mendrisio Academy Press	5. 総ページ数 263
3. 書名 Laboro e impresa nelle societa preindustriali. Labour and Business in Pre-Industrial Societies	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------